

本郷遺跡

— 公共下水道管埋設に伴う —

1999年3月

柏原市教育委員会

はしがき

柏原市は、河内平野の南東部に位置し、市域のおよそ3分の2が山地や丘陵で占め、その間を縫って石川や大和川が流れる府下でも有数の風光明媚な緑が多い町です。

近年、開発優先よりも環境保全や自然保護の気運も高まって、生活住環境や学校施設、植栽などを整備するための公共事業を市内各所で実施しています。その事業する場所は遺跡の内外にありますが、遺跡内については発掘や立会調査など必要な措置を執っています。今回報告する内容は、住宅地内の道路部分に下水道管を埋設する事業です。

下水道事業は、国道や府道内に敷設する主要な幹線の工事を大阪府が受け持ち、市内の府道や市道内に敷設する沿線の工事を柏原市が担当して施工し、年次計画の基に地域毎に順次行っています。事業期間中は運行や騒音など通常の生活を制限する面も多いのですが、この事業は、市民生活により利便な環境を整備するためのものと共に柏原市の歴史の解明の一助となるもので、文化財行政にご協力とご理解をお願い申し上げます。

平成11年3月

柏原市教育委員会

教育長 舟橋清光

例　　言

1. 本書は、平成8年度柏原市教育委員会が公共事業として実施した埋蔵文化財の発掘調査で本郷遺跡の概要報告書である。
2. 発掘調査は、柏原市教育委員会社会教育課文化係北野 重担当者として平成10年2月25日から同年3月19日まで実施したものである。
3. 調査の実施と整理にあたり、下記の諸氏の参加、協力があった。

橋谷和夫	柳谷好子	長西茂樹	川端 隆	安村俊史
石田成年	寺川 欽	谷口京子	谷川洋史	阪口文子
横原美智子	藤川富久子	尾野絹江	富田都子	浅野正子
乃一敏恵	有江マスミ	村口ゆき子	松本和子	山本允子
橋口紀子				

4. 本書の編集は、北野が行い、執筆は北野、遺物は阪口が担当した。
5. 本書で使用した方位と高さは特に表示しない限り磁北、T.P.である。

目 次

第1章 調査に至る経過.....	1
第2章 位置と環境.....	3
第3章 調査の概要.....	7

挿 図 目 次

図-1 柏原市位置図.....	1
図-2 本郷遺跡位置図.....	2
図-3 本郷遺跡出土縄文土器.....	3
図-4 小銅鐸.....	4
図-5 二重口縁壺.....	4
図-6 本郷遺跡調査地位図.....	5
図-7 小字図.....	6
図-8 調査区位置図.....	8
図-9 調査平面図.....	8
図-10 調査断面図.....	9
図-11 遺構図.....	9
図-12 出土土器.....	11

図 版 目 次

- 図版-1 調査区全景(東側から)(西側から)
- 図版-2 北半部調査区 南半部調査区
- 図版-3 南半部遺構検出状況(西側から)(南側から)
- 図版-4 北半部遺構検出状況(東側から)(南側から)
- 図版-5 セクション西側断面(西側から)(北側から)
- 図版-6 セクション東側断面(北東側から)(南東側から)
- 図版-7 潟状造構全景(南西側から)(北側から)
- 図版-8 遺物出土状況 遺物出土状況
- 図版-9 セクション上面 セクション東側断面落ち込み
- 図版-10 最下層面 南側断面
- 図版-11 作業風景
- 図版-12 出土遺物

第1章 調査に至る経過

柏原市の交通は、近鉄大阪線、近鉄道明寺線、JR大和路線、国道25、165、170線、西名阪自動車が丘陵部の間を縫うように大阪と奈良を繋いで走っている。また、大和川や石川の水運に柏原船や国分船として利用した。このように幾つもの種類の交通手段が行き交う市内には、古くから地理的、歴史的な蓄積と起点となって人と物の交流があり栄えた。

この地域は、豊かな水量と共に多量の土砂を放出する大和川が平野中心部を流れ、河内潟(又は河内湖)を次第に埋没させて広大な河内平野を成長拡大させていった。大和川本流は、その周辺部に自然堤防や羽曳野丘陵から伸びた低位の沖積地の方向によって幾重にも分散して平野川、長瀬川、玉串川など分かれて流れている。

この河内平野に下水道管を埋設することは、市民の衛生的環境や利便性を高め快適な生活を送るために基本的な社会整備事業である。下水道管を埋設する場所は沖積地や丘陵地であり、工事の難易度も種々あり低湿地の堆積土中に埋設することは困難な場合が多い。設備資本は、国や大阪府、及び地元市町村が主体で住民個人負担も含まれている。柏原市域は、大阪東部流域の区域に入り主要幹線、枝線、小枝線とからなり管径の大小や役割、深さなど大きく異なる。

今回の本郷遺跡内の下水道埋管設は、柏原市が主体となって実施する埋管事業で市道本郷法善寺線内に道路面から約12m深さの底にシールド工法による埋管である。文化財保護法第57条の3の通知書が提出(平成9年5月10日)され、周辺の調査事例から遺跡の存在が確認されている場所と大和川の氾濫源や荒廃地である場所があり、試掘調査によって存在するか確認する必要があった。

今回の調査地について、平成9年8月9日、試掘調査を実施した結果、遺跡の存在を確認した。調査は、埋管を行うための本工事の鋼矢板を設置した後、人孔部分を平成10年2月25日から3月19日まで実施した。調査は、地表面から2.4mまでは機械掘削により上層を除去した。この上層までは道路内に埋設した地下埋設管などで搅乱が激しかった。更に0.75mまでの部分を人力により掘削して造構と遺物の検出を測った。



図-1 柏原市位置図



図-2 本郷遺跡位置図

第2章 位置と環境

柏原市は、大阪府の東南部に位置し、大阪府と奈良県の間に連なる生駒山地の麓にあたり、広はう東西方向6.60km、南北方向6.63kmを測る大阪府下30市中第19番目の面積(24.77km²)を擁する小都市である。行政区画は、奈良県と境に接する内陸部にあり、奈良県側の市町は、生駒郡三郷町、同郡王子町、葛城市に属する香芝市の3市町があり、大阪府側の市は、八尾市、藤井寺市、羽曳野市の3市が隣接して四隅を囲んでいる内陸部に立地している。

旧石器時代から弥生時代にかけてのサヌカイト製石器原石、古墳築造の堅穴式石室の安山岩材や凝灰岩石棺材などの産出地であることから、古代からその交易と搬出入が長期間継続して繰り返されてきた結果として交通の基礎的な道筋が作られてきた地区である。このような歴史的な背景がこの地域の発展に大きく寄与したことが考えられ、奈良県下の水量を集めて大阪に流れ込む大和川と金剛山脈の水量を束ねる石川の二大河川が合流して大阪平野を貫流していることも水運の拠点として重要な要素で、これらの石材の産出地としての役割とそれに伴う物資や文化の交流も共に発展してきたのである。

柏原市内の遺跡群は、二大河川に三つの地区に分割される。一つ目は、大和川と石川の西側に広がる羽曳野丘陵の端部に営まれた遺跡群で、志紀郡、古市郡を含む河内地域の中心的な役割を持ち全体に低い丘陵に加え広大な平野部が石川や大和川流域に広がっている。大和川に隣接して国府遺跡、船橋遺跡、本郷遺跡、志紀遺跡が下流方向に連なっている。この地域の集落遺跡群が共同体となり、大和川の要衝地を握って文物の交流点として富を蓄積し文化も大いに発達したのである。

二つ目は、生駒西麓部に営まれた大県遺跡を中心とした平野遺跡、大県南遺跡、太平寺遺跡、安堂遺跡、高井田遺跡等である。三つ目は、玉手山遺跡、円明遺跡、田辺遺跡である。この地区は、安定した丘陵部であるが、平坦地面積が少なく小規模な集落が営まれる。古墳時代前期から後期にかけて古墳が築造される。前期は松岳山古墳群や玉手山古墳群があり、河内地域の首長層が埋葬されている。後期の安福寺横穴群、玉手山東横穴群、田辺古墳群、菅田山古墳群などで内部主体が横穴、横穴式石室、木棺直葬がある。周辺地域に群集墳を築造した一族が蕃居していた。これらの一族は古墳時代の文化の担い手や各種品物を生産することによって地位を確保した豪族であったのであろう。

柏原市域の遺跡は、旧石器時代から縄文時代、弥生時代、古墳時代と重複した遺跡が多く、日本の歴史に影響を与えた重要な遺産が沢山見られる。その後、飛鳥時代から奈良時代、中世、近世にも歴史的な出来事や遺産を多く数えることができる。

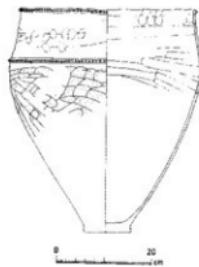


図-3 本郷遺跡出土縄文土器

本郷遺跡の調査事例の概略を述べてみたい。

大阪府教育委員会は、本郷遺跡の発掘調査を始めて実施した。

昭和55年7月、柏原市5丁目233-1・5における分譲住宅造成に伴い市道本郷・法善寺線の北側で60m²を調査し、新たな遺跡を確認した。大字の地区名を遺跡名として本郷遺跡80-1次調査とした。遺構は、弥生時代中期の方形周溝墓、同後期の土坑などを検出した。

さらに本郷3丁目763において遺跡の北東部で81-1次調査として約42m²を調査した。遺構面は、江戸、鎌倉、平安、古墳の各時代の5面の遺構面があった。また、さらに下層で縄文時代晚期の埋甕を検出した。遺構は、溝状遺構、井戸2、ピット、埋甕を検出して、遺物は、縄文晚期の甕、各井戸の内底部や堀方内から古墳時代前期の壺、甕、高杯などの土器が出土した。その他遺構及び遺物包含層から古墳時代から奈良時代の上部器や須恵器、埴輪、瓦、江戸、鎌倉から江戸時代の青磁や土釜、擂り鉢等が出土した。

82年度以降83-1次調査として市道内に水道管理設に伴い99.0m²の調査で、調査範囲が狭く遺構は確認されなかつたが、鎌倉時代の羽釜、古墳時代の前期から中期の土師器、須恵器、弥生時代中期から後期の土器、縄文時代晚期の土器等が出土した。83-2次調査として本郷3丁目758-2地内で、弥生時代中期の溝、近世の溝状遺構などの遺構に伴い、弥生時代中期の土器、古墳時代中期の土師器や須恵器、埴輪が出土した。沖積地の古墳が存在する可能性がある。標高14m付近である。89-2次調査は、本郷3丁目741-1で市福祉センターの建替え工事に伴い200m²を調査し、弥生時代から古墳時代にかけての遺物が出土した。90-3次調査区は、本郷5丁目217-1他で約1,300m²を調査し、本格的な面的な調査を実施した。この調査区の遺構は、弥生時代中期の土坑3基、後期の方形周溝墓2基、同溝7条、ピット群、古墳時代前期から中期の大溝4条、溝6条、堅穴住居4基、土坑2基、ピット群がある。遺物は、弥生時代中期から後期、古墳時代前期から後期にかけての多量の土器類や木器類が出土した。また、弥生時代後期の溝から小銅鐸が出土したことが特異な事例である。大溝は、水田農耕に配水のための堰を持つ溝と集落を開む環濠の性格を持つ溝があり今後の検証が必要である。92-1次調査は、大阪府教育委員会が下水道管理設に伴い弥生時代の銅鐸が出土している。

このように、本郷遺跡は、古大和川左岸の微高地に営まれた縄文時代から中世までの集落遺跡であり、遺跡深度が深いことによりその規模や内容が明確にされないが、断片的に各時代の遺構や遺物が確認されている。既に縄文時代中期から晚期までの生活の痕跡があり、弥生時代は、方形周溝墓、溝、土坑等があり、青銅器の小銅鐸、銅鐸が出土している。柏原市域には高尾山高地性集落か

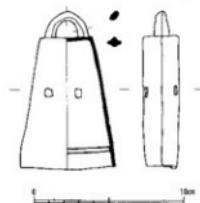


図-4 小銅鐸



図-5 二重口縁壺

ら多鉢細文鏡が出土しているが、弥生時代の土器に吉備地域から持ち運ばれてきた土器が出土し、他地域と交流が盛んに行われてきたことが見られる。古墳時代は、環濠となると考えられる大溝があり、古大和川の氾濫による被害を免れるため、また、農業配水や生活用水の確保に利用されたのであろう。堅穴住居は、環濠の内外に存在するが、外部の住居は疎らに点在する可能性があり、内部は密集しているように考えられる。前者は、遺跡の北側にあり、後者は南側にあたる。また、遺跡の北東部には埴輪が出土する地点が点在し、古墳の築造が考えられる。大和川の自然堤防を利用した微高地を選地して営まわれている。

参考文献

- 大阪府教育委員会・柏原市教育委員会『柏原市埋蔵文化財発掘調査概報』1981年度
柏原市教育委員会『柏原市所在遺跡発掘調査概報』柏原市文化財報告1983-4
柏原市教育委員会『本郷遺跡・玉手山遺跡』柏原市文化財概報1984-6
柏原市教育委員会『高井田遺跡・本郷遺跡』柏原市文化財概報1989-4
柏原市教育委員会『本郷遺跡』柏原市文化財概報1992-3
大阪府教育委員会『寝屋川南部流域下水道事業に伴う本郷・船橋・太平寺遺跡発掘調査概要』1994
柏原市教育委員会『柏原市所在遺跡発掘調査概報』1996-2

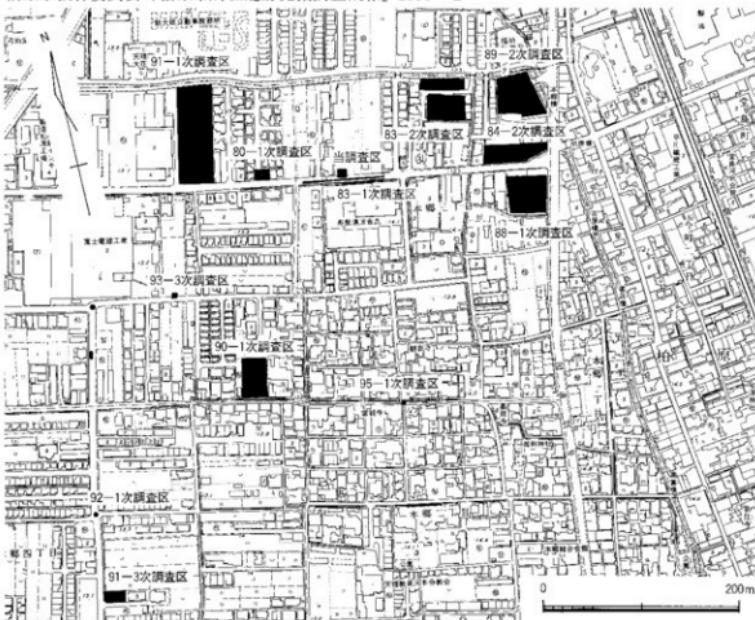


図-6 本郷遺跡調査位置図



図-7 小字図

第3章 調査の概要

平成9、10年度に実施した規模が大きな公共事業は、柏原市大県4丁目の大県南遺跡内の仮称健康福祉センターや柏原市国分東条町の北峯古墳群にある仮称国分東小学校の建設、柏原市平野の平野・大県古墳群にある高尾山創造の森の整備事業、柏原市国分本町7丁目の田辺遺跡にある国分小学校のプール新設に伴う発掘調査を実施した。この他には下水道関係事業が各所の市内遺跡群で行っている。

下水道開通の調査は、主に道路内に下水道管を埋設するため、道路を上層から掘削する掘削工法の工事と開削ではなく人孔部分だけを地表から掘削して一定の深さで繋ぐ推進工法、シールド工法とも云う工事がある。前者は、掘削深度が浅い場合や道路幅が狭い工事などに用いられており、工事期間中掘削時に立会調査を実施する。この調査では遺物の採集や土層断面の観察など遺跡の状況を知る資料となる。後者は、規模が大きな工事や交通に大きな支障を来す事や深度が深い場合などの諸条件がある。この場合調査は人孔部分に限定され、人孔部分の調査になる。通常鋼矢板が打ち込まれた後この範囲を調査する。

今回の調査は、柏原市本郷5丁目地内の市道本郷・法善寺線に下水道管を埋設する工事に伴い事前の調査を実施したものである。試掘調査の状況から当初の計画どおり地表面から約2.4mを機械掘削し、その下層の約0.7mの土層を人力により掘削調査することとなった。工事は、シールド工法による埋管を行い、ある程度の距離を隔てた場所に人孔を設定し、地上の部分は現状のままで掘削を行わずこの人孔から埋管の部分を掘削する内容である。



図-8 調査区位置図

遺跡深度が深いので工事の準備として人孔部分の鋼矢板を打ち込み、枠組みを施し安全対策をとった後、調査を始めた。調査を実施するにあたり、事前の試掘調査を実施した。試掘調査は、人孔の北側に1ヶ所のトレーナーを設定した。土層は、上面から耕作土が堆積し、0.3~0.5mの厚さで砂層や土色や土質が異なる土層が堆積しほぼ水平堆積であることを確認した。調査区は近年まで水田農耕が行われた地区で条理遺構がよく遺存している地区である。近隣の調査事例を参考にして、中世くらいまでの時期の土層まで機械掘削する予定で、当初想定していた耕作土層まで立会しながら掘削した。

調査は、平成10年2月25日から同年3月19日(実動7日間)まで行った。下水道工事の実施は、佐藤工業株式会社大阪支店が請負、工事費用内に埋蔵文化財発掘調査費用が含まれていないため、同社と別途委託契約を行った。契約内容が人力掘削の調査経験を持つ作業員を雇用する取り決めていた事から発掘調査を専門とする株式会社島田組が人力掘削等の作業を行った。掘削方法は、地表下2~3mの土層を機械掘削し、その下層の平均0.75mを人力により掘削する。排土は、重機によって行い、掘削土は2tダンプによって仮置することを取り決めた。

調査範囲は、市道本郷法善寺線の道路内と北側水田部分が約半分ずつ占める。南北方向10.0m、東西方向8.4mの範囲である。掘削した土砂は、北側の借地に仮置し、上層の約2.4mまでの掘削に立会して土層の堆積状況や遺物の混入がないか確認した。しかし、上層は水道などの埋管によって搅乱が激しく湧水も多いことにより成果はなかった。北側の水田部分には搅乱層が少なく、水田の耕作土や大和川の氾濫による砂層の堆積が主に見られた。

まず、南北方向と東西方向の断面観察から行いたい。

南北方向の断面は、鋼矢板を機械によって揉みながら打ち込んでいるので調査区の西側端部に沿って約0.5m幅で遺した。この断面をA面断面図とした。第1層は、暗青色粘質土で10~25cmの厚さがあり、南端から北側に4.5mの長さで確認した。第2層は、茶褐色砂質土で厚さ10~15cmを測る。第1層の下層にあり、南端から約2mの長さで続いている。第3層は、暗青灰色砂質土である。断面全体に伸びて続いており、5~10cmの厚さを測る。南側と北側で少し低く中央部で緩く弧状に盛り上がり高くなっている。厚さ約10cmである。第4層は、北側端部の第3層の下層にあり、青灰色粘質土である。第5層は、茶灰色砂土で下層に厚く続いている。北側でさらに深く掘り進めると2m以上の厚さを確認した。南側の東西方向のB断面は、長さ約7.5mを測り、A層より粘質土が厚く堆積し南側へ微高地となっている模様である。第6層は、黄茶色砂質土で幅約1.0mを測り凹

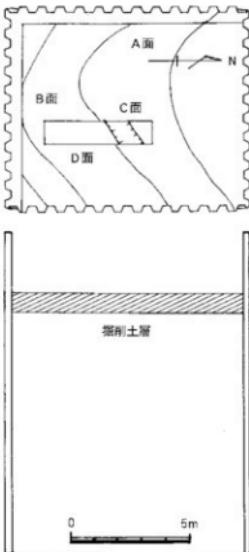


図-9 調査平面図・人孔断面

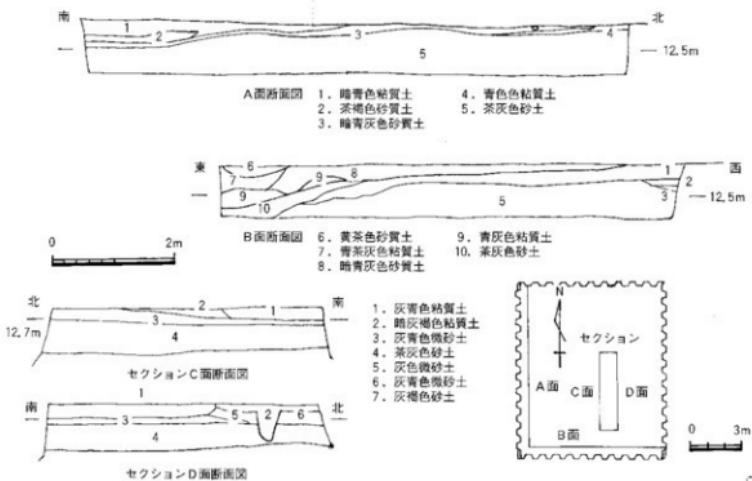


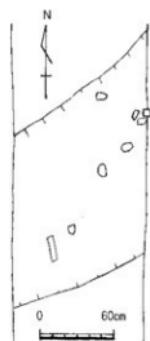
図-10 土層断面図

みの中に溜まった状態である。第7層は、青茶灰色粘質土で第6層の下層に厚さ0.2mを測る。第8層は、ほぼ全体に伸び、厚さ0.1~0.4mを測り東側で厚くなっている。第9層は、第7、8層の下層に長さ2mと部分的に落ち込みの中に堆積した土層で青灰色粘質土である。厚さ0.3mを測る。第10層は、さらに下層に内側から流れ込んだように堆積した茶灰色砂土である。下層になるほど厚く0.3cmを測る。長さは、東側から約2.5mである。このように大部分が砂層でわずかに粘質土が見られる。

調査は、平面を均等に約0.1~0.2mの厚さを基本に掘削しながら遺構の検出を行い、土層の変化によって遺構面があれば対応して掘削した。

人力掘削による調査の結果は、下記の通りである。

平面的に精査し検証したが、不定期に屈曲した土層の分離線を確認したのみで遺構は確認されなかった。西半部と東半部に分け、さらに南北の4区に分けて遺物の取りあげを行った。遺物は、主に粘質土の土層から弥生時代から古墳時代の遺物が少量出土し、粘質土の下層になる砂層から数点の縄文土器が出土した。調査の途中で中央南半部で幅1.0m、南北方向4.5mの鞋(セクション)を残し、他の部分は掘り下げていった。また、このセクションの土層の断面観察を行った。西側をC面、東側をD面とした。



第11図 溝状遺構

C面の土層観察を行った。上層より第1層は、灰青色粘質土である。南側端部より1.7mまであり、厚さは0.2mである。第2層は、暗灰褐色粘質土である。ほぼ中央部に堆積し厚さ0.15m、長さ1.7mである。この第1、2層は、土色が異なるがほぼ同一時期の堆積土でこの土層から弥生時代後期から古墳時代前期の土器類が出土した。今回報告する遺物は、主にこの土層からである。第3層は、灰青色微砂土である。厚さは0.1~0.2mを測り全面に広がり非常に細かい砂層である。遺物の出土がなかった。第4層は、茶灰色砂土である。第3層より下層の大部分がこの土層で0.5m以上を測る。

D面の土層は、東側の断面である。第1層は、南側から2.7mまであり、厚さ0.2mである。

第2層は、北側部で厚さ0.1m、長さ1.7mである。中程で落ち込みを確認した。落ち込みの埋土も同じ暗灰褐色粘質土である。幅0.4m、深さ0.5mを測り、自然の落ち込みであると考えられる。このセクションの上面で溝状の落ち込みを検出した。幅1.4mを測り、南北方向から北東方向へ伸びている。底部は弧状になっており、深さは、約10cm未満でごく浅い。この土層は、暗灰褐色粘質土で木片や石、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての土器類が少量出土した。今回報告する遺物は、大部分この土層からである。溝という性格より自然の落ち込みであると判断した。

調査区は、縄文時代の晩期土器が出土する茶灰色砂土の土層が基盤としてその上層に灰青色粘質土や暗灰褐色粘質土などの粘質土層が堆積している。つまり、灰青色砂質土が自然微高地状に北側で高く、南側で緩く南傾斜に下がっている。図-9の調査平面図に等高線を入れたが、調査区の北側が高く、南側に少しずつ下がっている。南側では西側と東側にそれぞれより下がり、東側にはより低い。北側と南側の砂層の高低差は、約0.5mである。その下がった低地部分に粘質土系の土層が堆積し、この土層内から弥生時代後期から古墳時代前期の土器類が出土している。検出した明確な遺構はなく、微高地の縁辺部と考えられる土層の堆積が確認された。集落は、砂層の上面で営まれていた可能性もあるが、近辺の調査事例から主に粘質土系及び砂質粘土の上面で遺構が見られる。今回の調査区では遺構は確認されなかつたが、集落遺跡の縁辺部であると言える。

出土遺物

今回出土した遺物は少ないが、形状のわかる遺物について若干の説明を加える。1は、縄文土器の小片。外面に状痕が見られる。縄文時代晩期の土器である。2と3は、弥生時代の壺。2は壺口縁部で内外面共に波状文を巡らせ、外面上には竹管を押し付けた円形浮文を貼り付けている。3は壺底部で、内外面を丁寧な細かいへら磨き調整が施されている。4は、管状土錘。長さ6.7cm、直径3.2cm、重さ72.0gを測る完形品である。5と6は、庄内壺。いずれも肩部から口縁部にかけて、外上方に向って鋭く屈曲し、口縁端部はつまみ上げるように立ち上がる。5は、口縁内面にはけ目を施した後、なで調整を行っている。6は、体部内面をへら削り、外面は左下りの叩きを施す。7は、直口壺。平らな底部にやや張った肩部を持ち、口縁部は外方に外反する。全体に表面磨耗が著しく調整等は不明瞭である。体部の一部分に黒斑がみられる。遺物の出土状況から見れば、当遺跡では、これまで同時期の土器が出土し、当調査区の東側へ100mの範囲で集落が営まれていたと考えられる。弥生時代は、遺跡全体の微高地から出土し、集落範囲が拡大して規模が大きな集落に変貌している。古墳時代も弥生時代と同様集落範囲が広く生活の痕跡が見られ、出土遺物は非常に多い。古墳の築造もなされており、群集する可能性がある。

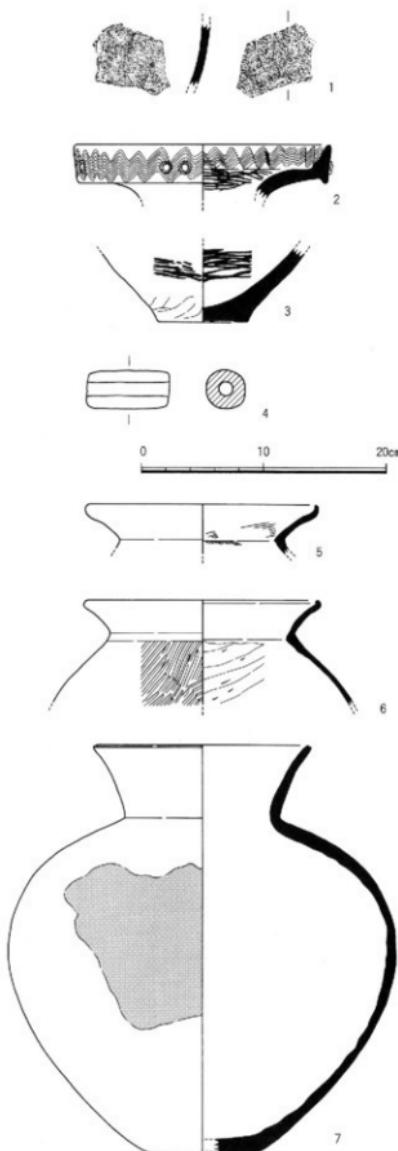


図-12 出土土器

図 版

図版一

調査区全景（東側から）（西側から）



東側から



西側から

図版二
北半部調査区
南半部調査区



北半部調査区



南半部調査区

図版三 南半部遺構検出状況（西側から）（南側から）



西側から



南側から

図版四
北半部遺構検出状況
(東側から)
(南側から)



東側から

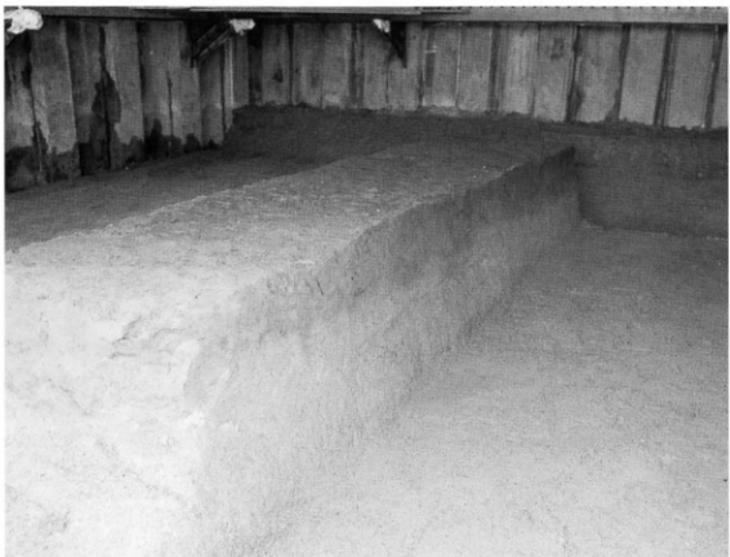


南側から

図版五 セクション西側断面（西側から）（北側から）



西側から



北側から

図版六 セクション東側断面（北東側から）（南東側から）



北東側から



南東側から

図版七 溝状遺構全景（南西側から）（北側から）



南西側から



北側から

圖版八

遺物出土狀況



遺物出土狀況



遺物出土狀況

図版九 セクション上面 セクション東側断面落ち込み



セクション上面

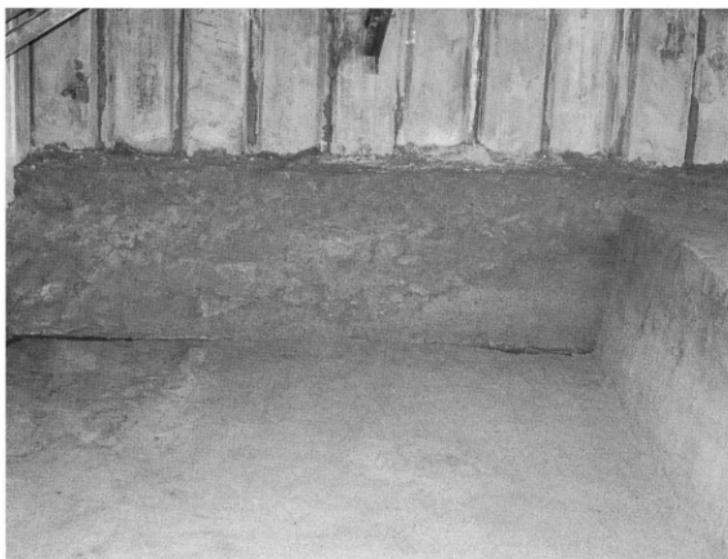


セクション東側断面落ち込み

図版一〇 最下層面 南側断面



最下層面



南側断面



作業風景



作業風景

圖版一二 出土遺物



出土遺物



出土遺物

報告書抄録

ふりがな	ほんごういせき						
書名	本郷遺跡						
副書名	公共下水道管埋設に伴う						
卷次							
シリーズ名	柏原市文化財概報						
シリーズ番号	1998-IV						
編著者名	北野重						
編集機関	柏原市教育委員会						
所在地	〒582-8555 大阪府柏原市安堂町1番43号 TEL 0729-72-1501						
発行年月日	1999年3月31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村・遺跡番号	北緯 度分秒	東経 度分秒	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
本郷遺跡	柏原市本郷	27221 H G 98-1	34度 35分 20秒	135度 37分 10秒	19980225 ~ 19980319	84.0	公共下水道管 埋設に伴う
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
本郷遺跡	集落	古墳時代	溝	庄内壇			

本郷遺跡

— 公共下水道管埋設に伴う —

編集・発行 柏原市教育委員会
〒582-8555 大阪府柏原市安堂町1番43号
電話 (0729)72-1501内線5133

発行年月日 平成11年3月31日

印 刷 徳近畿印刷センター

